
3 . 低炭素社会実現に向けた 日本の貢献

国際的削減枠組みの提案：クールアース推進構想

全世界
CO2
排出量

将来見通し
(現状放置)

“ポスト京都フレームワーク”

- ・今後10年～20年で地球全体の温室効果ガスをピークアウトへ

“イノベーション”

- ・革新的技術の開発
- ・低炭素社会への転換

“国際環境協力”

- ・省エネ取組の国際展開
- ・新たな資金メカニズム
(クールアースパートナーシップ)

“クールアース50”
世界全体の排出量を
2050年までに半減

現在

2020

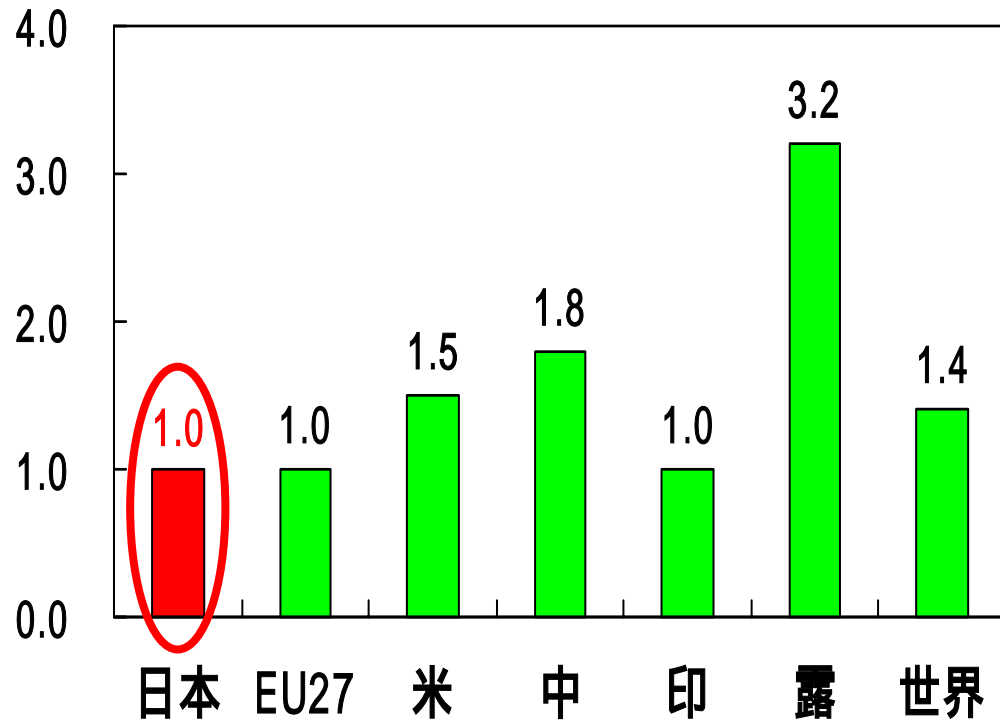
2030

2040

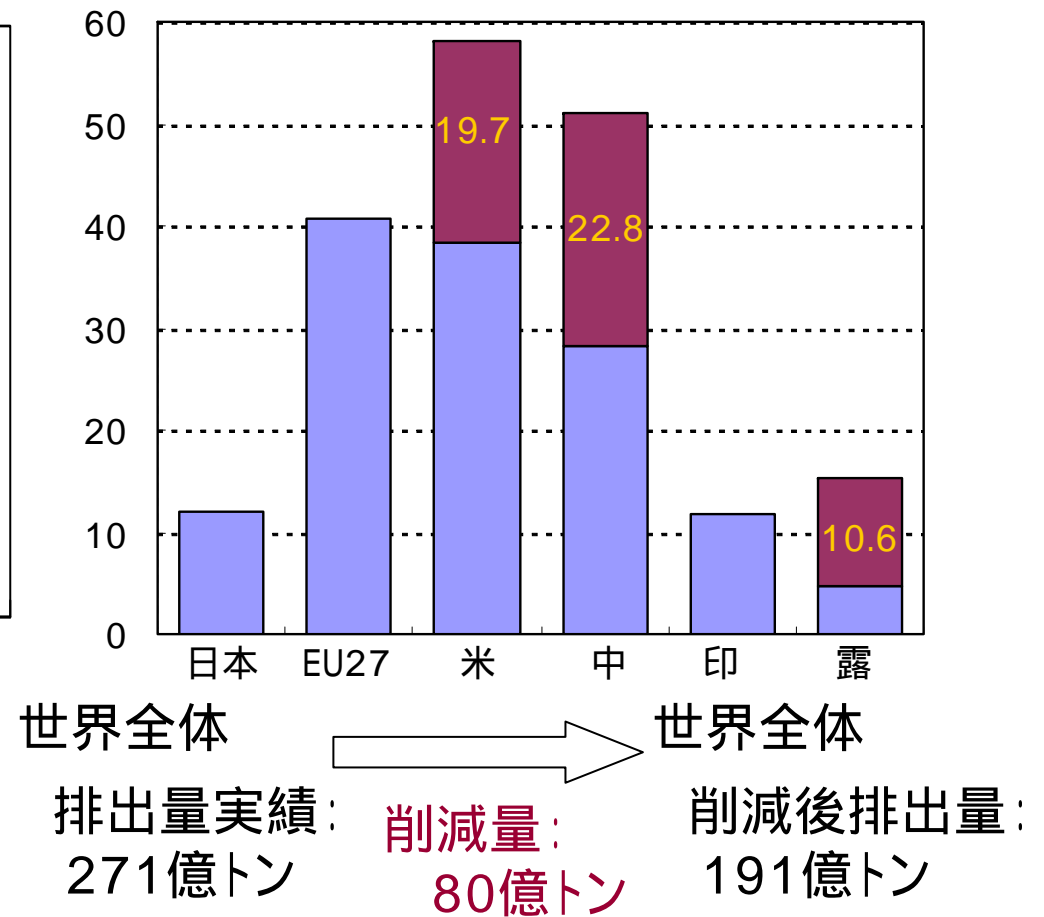
2050年

世界トップの日本の環境・エネルギー技術で世界に貢献

【GDPあたりCO2排出量(2005年)】

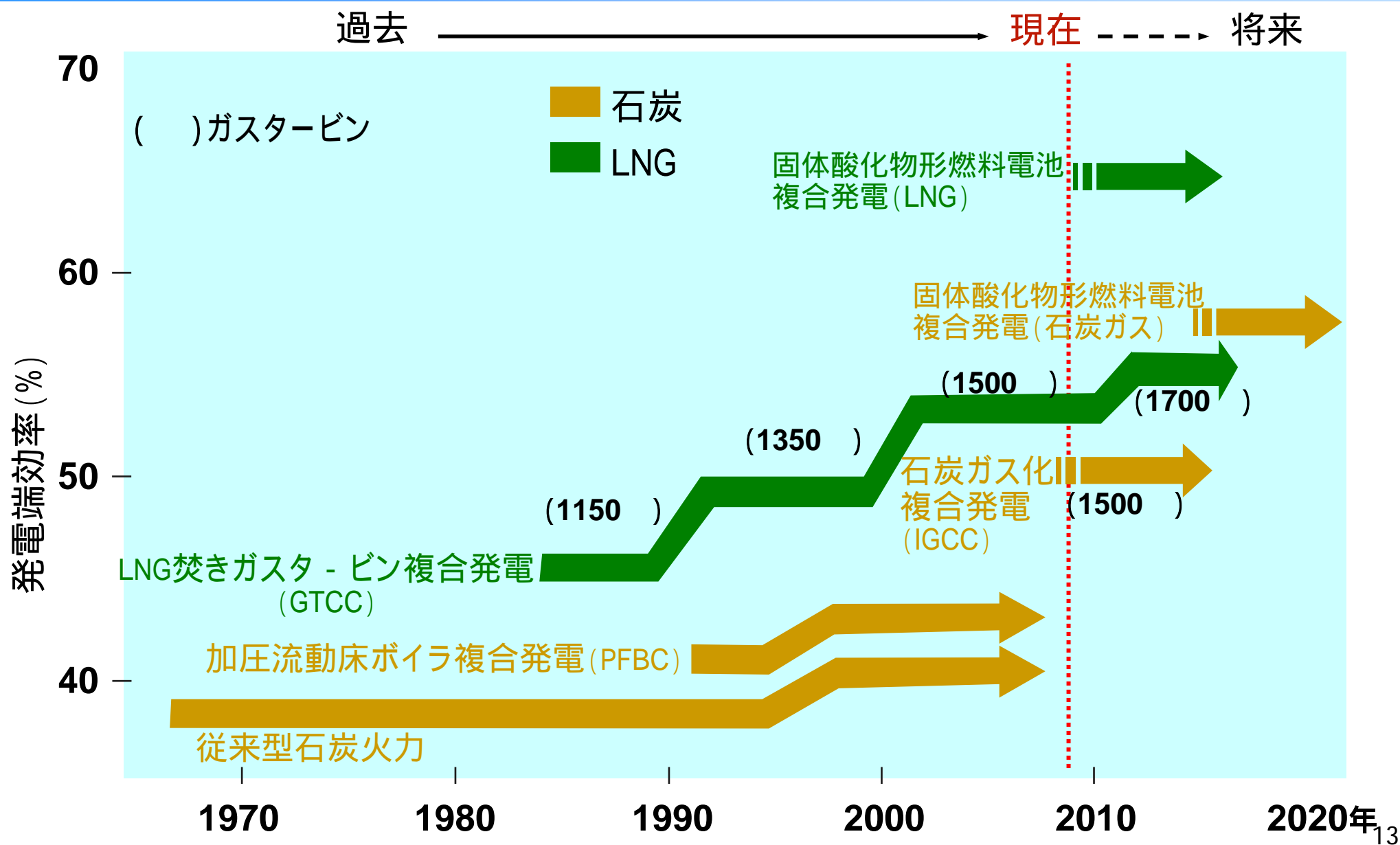


【各国が日本のGDP当りCO2排出量になった場合の削減量】 ■ :削減量



30%削減可能

エネルギー転換時のCO2削減(1):火力発電プラントの高効率化



エネルギー転換時のCO₂削減(2):原子力のグローバル展開と新技術

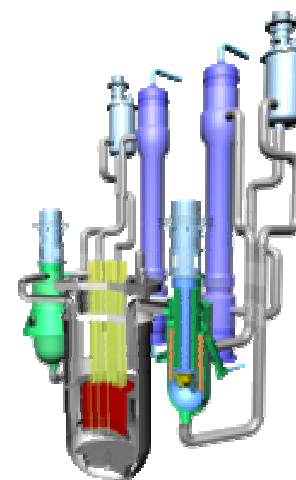
日本で培ってきた最新の技術を
世界のパートナーとのコラボレーションでグローバル展開

- “もんじゅ”をベースに世界標準としての高速増殖炉の開発加速
- ・国内では、2025年頃 実証炉、2050年頃 商業ベースでの導入

新型高速増殖炉(FBR)

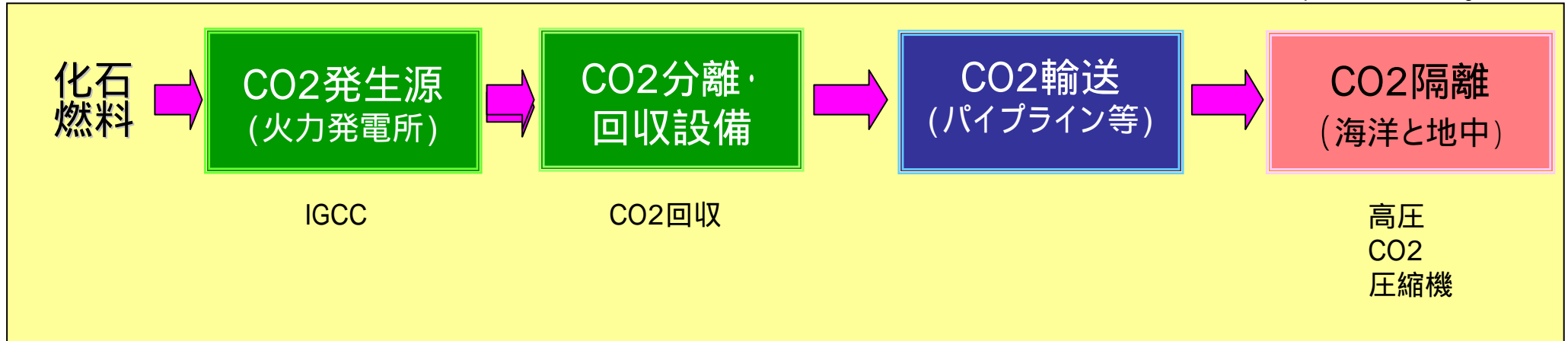


もんじゅ



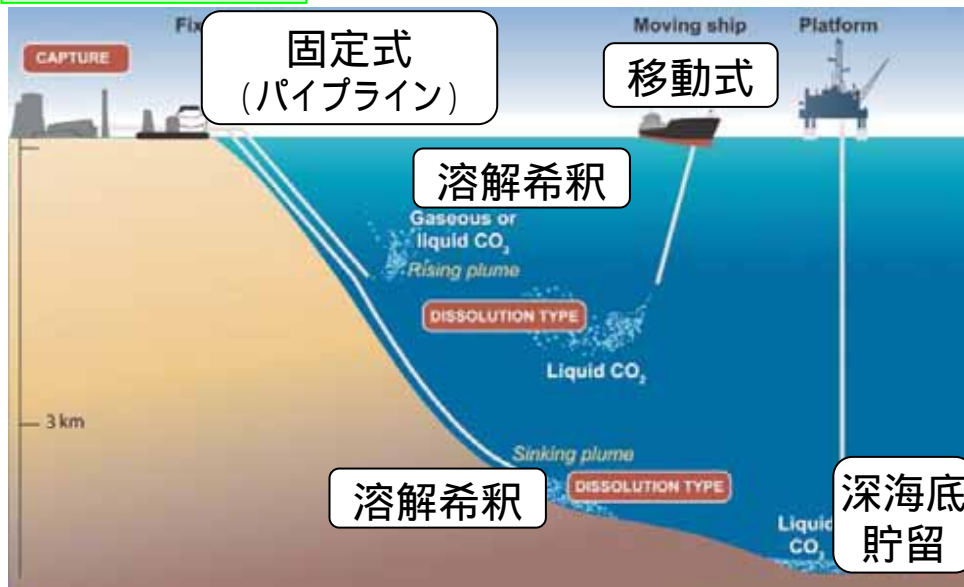
エネルギー転換時のCO2削減(3) : CO2回収・貯留技術 (CCS)

CCS: Carbon-dioxide Capture and Storage



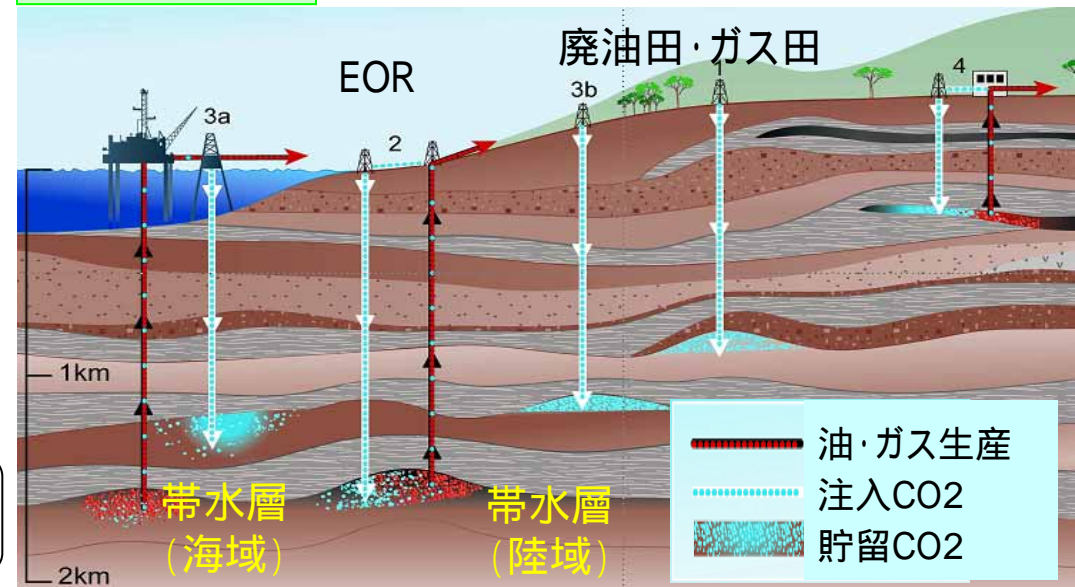
CO2の貯留方法

海洋隔離

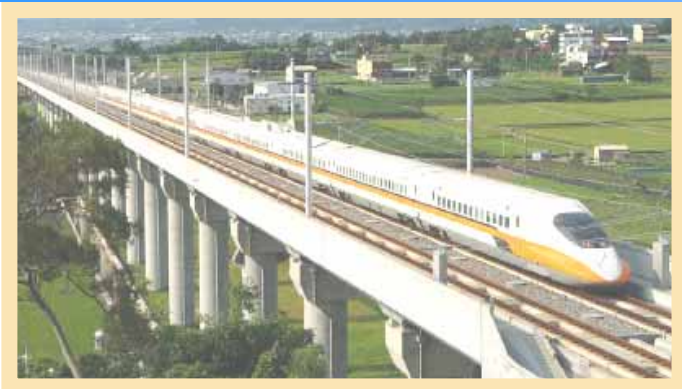


地中貯留

EOR (原油増進回収) : Enhanced Oil Recovery



エネルギー消費時のCO₂削減(1): 運輸部門



高速鉄道



新都市交通システム



電気自動車 (蓄電池)

エネルギー消費時のCO2削減(2): 家庭部門 超省エネ住宅

